



水田復旧事業のサツマイモ畑を白川小学校のみんなに収穫してもらいました

白川郷の合掌造り



第 9 号
平成19年3月31日

発行 (財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町
2495番地の3

平成9年に設立された合掌財団も来年度で設立10周年の節目の年を迎えます。この10年、世界遺産集落の修理事業・修景事業などの補助事業を中心に調査事業や保存会育成事業、修理設計監理受託事業、水田復旧事業等遺産保護に関する様々な事業を展開してきました。

10年前と比べると白川郷を取り巻く環境も随分と変わり、特に財団設立の年に着工された飛騨トンネルが今年度貫通し、平成20年3月に東海北陸自動車道の

遺産を取り巻く環境の変化を向かえて

(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
副理事長 成原 茂

全線開通を迎えることとなります。東海北陸自動車道の全線開通は観光客流入の変化をもたらし、当面は白川郷ICから荻町間での交通渋滞が容易に予測されます。この交通問題の解決は白川郷の長年の課題であり、東海北陸自動車道全線開通を目前にした「新交通システム」の確立が、住民生活の保護は当然のこと遺産保護の意味でも必要不可欠であります。

合掌財団ではこの新交通システム計画の更なる普及に向けて来年度の18回の交通規制に対し全面的に支援し、円滑な地域交通体系の確立を目指します。

文化財保護の面では昭和62年に行われた重伝建地区保存計画の見直し調査以降この20年間伝建地区に対する見直し調査が行なわれていません。伝建審議会の中で以前から荻町にはもっと文化財となるべき物件がたくさんあると指摘を受けていました。その中でも水路や石積み等の合掌造りを取り巻く環境的な要素に関する現状調査は九州大学の西山徳明教授のご協力のもと完了しており、残りの建造物に関して来年度の調査普及事業で見直し調査を計画しています。この見直し調査ではすでに伝的建造物となっている物件についても調査を行い、文化財としての価値評価を改めて整理する作業も予定しています。保存地区の住民の皆様には調査に關しましていろいろとご協力いただきことになりませんがどうかよろしくお願ひ申し上げます。

今まで財団の行ってきた様々な保存事業は岐阜県や合掌基金にご協力がいただきました全国各地の皆様方のご支援によって行なうことができました。これからも皆様の力強い励ましにあらわれるような事業を展開できるよう職員一同努力してまいりますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

自治保存会育成事業

美山町へ行ってきました！



平成19年度研修参加者

今年で二回目を迎える保存会育成事業による視察研修は七月二日・三日の日程で京都府南丹市美山町と滋賀県長浜市に行ってきました。参加者は十三名で一日目の美山町では地元保存会の方々と意見交流、二日目は地域特産販売事業を行っている「ふらっと美山」視察の後、長浜商店街復興の経緯をNPO法人長浜まちづくり役場においてお話を伺いました。特に「ふらっと美山」における地域特産品販売事業の実態と地域住民の関わり方に皆さん感動されたようでした。今回は美山町での研修について報告させていただきたいと思っております。

美山町北地区は平成五年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、白川村荻町と同じ農村集落で茅葺民家をもつ保存地区です。地区選定以来農村と茅葺という共通点から白川村とはたびたび相互の交流が行われていました。

看板の無い集落
交流会の前に保存会の方に集落内を案内していただきました。

美山町は荻町と同じ農村ですが、河岸段丘の平地にある荻町と違いいな壇状の斜面に集落が形成され、高いところにならなくても集落の下を走る国道からほとんどの茅葺民家を見渡せます。車はすべて集落外の国道沿いに整備された駐車場に駐車して集落内は徒歩で散策します。

当日は日曜日だけあって結構な観光客が訪



国道からのぞむ集落の風景

二階で保存会の方々と交流会を行いました。交流会では主に「保存と観光」を主題に話が進められ、北区の観光の考え方を中心にお話を伺いました。まず、北区では区民の方々が投資して「(有)かやぶきの里」という有限会社を立ち上げられてその会社組織を中心に観光産業を進められているということでした。具体的には特産品販売(かやの里) 飲食店(きたむら)、地場産品の生産(きび工房) 民宿(またべ)の四つの部門を経営し特産物の原料生産から販売、観光客の宿泊所の提供まで全てをこ



地元保存会の案内で散策

れていました。集落内には看板等の広告物がまったく見受けられず非常に落ち着いた印象を受けます。そう思って各建物を見てみるとお土産屋さんや飲食店等の営業をされている店舗が全く見られませんでした。



美山町のすばらしさをたくさんお話頂きました

の会社を中心に行っています。区の雇用対策から会社立上げをされて今ではパートを含めて四十名程の地元の人が勤務されており、全て年間の売り上げで賄っておられます。会長さんのお話では「この会社ができてから、土地で作ったものが実際に売れるということと区民のみなさんの生活にはりができた。」とのことであることが感じられました。個人経営の営業者は二軒の民宿のみで基本的には観光に関しては(有)かやぶきの里を中心に進めていて、保存会でも個人経営に対する規制を呼びかけているとのことでした。観光客の中には「ご飯をたべるところがない」などの意見もあるようですが、「あ



国道を挟んだ向かいの駐車場内に「かやの里」と「きたむら」が建つ

「住民のみなさんは「景観を守る」とが暮らしを守ることであり」という意識を常に持って生活されている。その中で、話を伺って、「住んでいるものみんなで自分たちの暮らしを守る」という気概が常に感じられました。

「現年の一番の課題は高齢化問題で北区に住む人の六十%が六十歳以上という状況だそう。いかに次の世代の人々を確保するかということ(有)かやぶきの里を中心に若い人々を雇用して高齢化問題の解決を目指しておられるということ。」

「二日目は北地区の隣の平屋地区にある「ふらつと美山」という地域特産物を販売する店舗に立ち寄りしました。「ふらつと美山」は地域が経営して成功している事例としてたびたびマスコミに取り上げられ全国的な評判となっているお店で、今回の視察で立ち寄ればと思っていたのですが飛び込みで立ち寄ったところ代表者の方のお話を伺うことができました。この「ふらつと美山」も地元の法人(有)ネットワーク平屋によって経営されています。この「ふらつと美山」の面白いところは地元の野菜や米、牛乳、卵、手作りお菓子、加工食品等の商品を陳列棚まで持ち込んで販売するところ。各地域生産者はネットワーク平屋から自

ふらつと美山



農協の空き店舗を活用

分のバーコードシールを買って商品に貼りつけて店舗に自分の商品を並べます。販売は「ネットワーク平屋」で行うので売り上げの二割を販売手数料として収めます。売れ残ったら生産者自らが商品を持ち帰ります。実際に私たちが訪れた時も地元の方が朝採れた野菜を持ってきて並べていました。まさに生産者の顔が見える店舗経営です。

農協の空き店舗の活用から

(有)ネットワーク平屋の設立は、平成十二年のJA美山町の広域合併により平屋地区の農協が空き店舗となったことがきっかけでした。「地域で共同出資して地域特産物を販売する店にしてはどうか」という話が地域で盛り上がり、地域の暮らしの利便性と地域生産者を守ることを目的として法人設立に踏み出しました。「商品は地元で作られたものしか扱わない」ということを徹底したことで評判が口コミで広がり、今では年間十万人の来客があり、内八十%が町外者ということ。京都の市街地から一時間以上かけて野菜を買いに来る人もいるぐらいの人気店舗に成長しました。現代の消費者がいかに国内の安心した商品を求めているかがこのことから感じられます。



生産者は自分のバーコードを購入して商品に貼ります



店内には地域特産品がたくさん



買い物をしていると地元の方が続々と商品を持ってきます。商品のお話も聞けます

家庭菜園の延長

ネットワーク平屋では加工食品などの企画も行い生産者に商品生産の斡旋も行っていて、実際に食品加工所を作って地元の奥様たちに厨房を開放してお菓子を作ってもらったり商品充実させる努力もされています。また、生産者の方々に有機栽培無農薬野菜栽培等の研修を受けてもらう等商品の質の向上にも力を入れておられます。

売り上げは上々で年間の売り上げは一億円を超えるとのことでした。売り上げの四十％は加工食品で、次に多いのが野菜で十六％と、やはり日持ちのする商品が主力となっています。当面の課題としては季節によって収穫量に偏りのある生野菜の活用で、なんとか加工食品にできないかと頭を悩ませているそうです。



地元の奥様たちの作ったシュークリーム



家庭菜園の延長状に「ふらつと美山」があるという考え方で生産者との関係を持つということで大規模な生産者の商品をあてにするのではなく、むしろ各個人の趣味の延長として生産者になってもらえたいというスタンスで活動をされているということでした。

生きがいの創出

今回の美山町の視察を通して、生産者「地域の人々に解放された店舗があることで良好な地場産品を創出できるといふことを実感しました。「あそこの店にこんなもの置いてみよう」という地域の人々のアイデアをすぐに吸収できる「ふらつと美山」という背景があるからこそ地域の人々は安心してものづくりをやる事ができるわけで、そこに住むひとりひとりが生産者となることで全ての人々の「生きがい」を生み出すこと

地元の山野草も販売されていました

にも繋がっているのではないかと思います。

美山町の北地区にしる、平屋地区にしる「みんなが幸せに暮らせる地域づくり」を地域の人々が自ら淡々とやられていることに迫力を感じました。今回の視察参加者全員が地元のものしか置いていない店舗にカルチャーショックを受け、とにかくいろいろな地場産品を買って帰り「ふらつと美山」を後にしたバスの中では皆さん考えさせられるものがあつたようです。



とびこみにもかかわらず詳しいお話を頂きました



とにかく地元の人々がひんぱんにやってきて商品を置いていきます

ふらつと美山のパンフレット



たくさんとれたよ!!



白川小学校では学校田を遺産地区内にしていただいて水田を維持いただいています

水田復旧事業

田んぼに
もどりましました!

今年も引き続き水田復旧事業を行いました。今年の水張り水田にしていた水田に稲を植えてみました。他の田んぼと比べると水持ちはまだ悪かったのですが土壌も大分なれてきたようです。秋には無事収穫することができました。不耕作地であった農地を一昨年から重機で起こして蕎麦を栽培し、昨年は水張り水田として何度も代掻きを重ね、ようやく今年田植えができる状況となりました。耕作開始から足掛け三年で水田に復活することができました。そう考えると、長い間不耕作地になっていた土地を水田に戻すということは随分な時間がかかるんだということを実感いたしました。

今年も引き続き水田復旧事業を行いました。今年の水張り水田にしていた水田に稲を植えてみました。他の田んぼと比べると水持ちはまだ悪かったのですが土壌も大分なれてきたようです。秋には無事収穫することができました。不耕作地であった農地を一昨年から重機で起こして蕎麦を栽培し、昨年は水張り水田として何度も代掻きを重ね、ようやく今年田植えができる状況となりました。耕作開始から足掛け三年で水田に復活することができました。そう考えると、長い間不耕作地になっていた土地を水田に戻すということは随分な時間がかかるんだということを実感いたしました。



収穫したお米を売って頂きました



客土のかたよりが著じるしかだったのでトラクターで棒を引いてならしました



今年公民館前の不耕作地も田んぼに戻りました



2006年7月20日 水田に復活しました



2005年8月17日 昨年は水を張った後そば畑に

平成18年度文化財修理報告

文化財専門設計監理技師 松本継太

渡辺敏夫家住宅(伝建非合掌 8)

建物の規模

桁行	15.59 m
梁間	8.28 m
建築面積	144.4 m ²

建物概要

渡辺家住宅は昭和30年に荻町の現在の場所に移築されている。移築前は鳩谷ダム建設(昭和31年完成)によって集団離村した大牧集落にあり、大牧の寺院「浄蓮寺」の庫裡であった。大牧集落には二十数棟の合掌造り民家が存在していたが、ダム建設時に取り壊される等して集落から姿を消した。引き取り先が見つかった合掌造り民家のいくつかは村外に移築された。名古屋市の東山植物園の旧太田家や大阪府の日本民家集落博物館の旧大井家等がそうである。渡辺家住宅もそれら合掌造り民家と同様に前所有者である浄蓮寺住職米澤靈観氏から現当主の渡辺氏が引き取り荻町に移築された。



修理後の渡辺家住宅

建物は白川村の民家では珍しい総二階建ての建物で大牧集落にあった頃はクレ板葺の屋根であったという。荻町へ移築の際に背面側と北側二間分の落屋の二階を増築するなどの改築がされ、屋根もトタン屋根となった。その後平成9年に一階部分を中心とする軸部修理が行われ現在に至る。

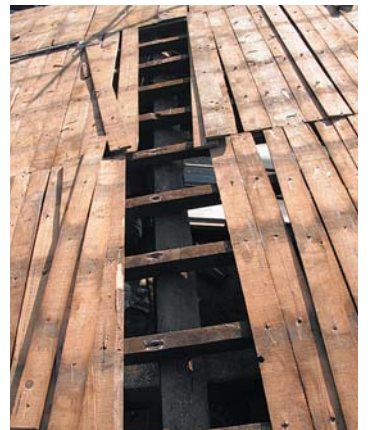
破損状況

平成17年12月から翌年2月にかけての大雪「平成18年豪雪」は4、826件の全国的な家屋被害をもたらした。渡辺家も12月の断続的な積雪によって本屋正面側の垂木49本の内32本が桁を支点に折れ、棟木や母屋の持ち出し部分が束を支点に折れる等の被害を受けた。

渡辺家は落雪式の屋根になっているため例年の降雪であれば晴れた日に自然に落ちるのであるが、連続的に降り続いたことで雪が落ちることなく屋根に残り、雪おろしをした際に雪が一気にずり落ちてその反動で垂木が折れた。さらに、垂木の出(1m)に対し垂木部材の成(7cm)が足りないという建物の構造上の理由も今回の破損の要因と考えられる。



平成18年豪雪被害直後



野地板解体：チヨークは移築前釘跡

修理方針

修理は現状維持とし、破損した部材は取り替えた。垂木に関しては今後また同様の被害が考えられるため補強を行なった。

修理概要

修理は破損部分の解体のみにとどめて行なった。正面側は全面、背面側は母屋と棟木を取り替えられる範囲までトタンを剥がし、垂木は破損垂木のみを解体し棟木・母屋の取り替えに支障の無い既存垂木は解体しなかった。

御当主の話では移築の際に垂木は取り替えられていないとの事で既存垂木は移築前の垂木の可能性があるため補強して残すこととなった。実際に解体してみると垂木に釘の打ち替え跡が見られたため移築前の垂木であることが判明した。また垂木には野地板釘の打ち替え跡が見られなかったため御当主の話通り移築前はクレ板葺きであったこともわかった。

補強の方法については様々な検討を行った結果、垂木の上面に炭素繊維板を張って補強することになった。計画上は現状の約1・5倍の耐力を持たせることができる。補強の検討に当たっては(財)文化財建造物保存技術協会のご協力をいただいた。



正面側垂木の全てに補強した

大牧浄蓮寺

現在大牧浄蓮寺の本堂は移築されて小白川の寺院「蓮光寺」となっている。旧白川村史によると浄蓮寺はもともと保木脇に道場が開かれたのがはじまりで、その後隣村の野谷へ寺を移して現存する本堂が建築された。さらに明治24年に大牧に寺が移され、同時に本堂も移築された。結局ダム建設のために

浄蓮寺は廃寺となるが建物のみが小白川に移築され蓮光寺の御堂として生まれ変わったのである。

本堂の構造形式は桁行七間、梁間八間半、一重、入母屋造りで白川村では大規模な部類に入る。樺柱の立派な寺院建築で大牧にあった頃はこの本堂の北隣に庫裡が建っていた。本堂が明治24年に大牧に移築されたことを考えると、もしかしたらその時に庫裡が新築されたことも考えられるが根拠となる資料が無いため推測の域をでない。いずれにしろ渡辺家住宅は今は無き大牧浄蓮寺の遺構であると共に白川村の庫裡の建築様式を今に伝える大切な文化財である。



旧大牧浄蓮寺本堂 現在は小白川蓮光寺

人材育成事業

合掌造り学習模型で合掌の小屋組み構造を学ぼう!

人材育成事業の一環で合掌造りの小屋組み構造を学ぶための学習模型を作成いたしました。以前に小学校の子供達から「合掌造りの模型を造りたい」という依頼があった時はダンボールや新聞紙を丸めて作りました。しかし、部材一つ一つを作るのにとても時間がかかったためもっと短時間で合掌造りの構造を学べる模型があれば手軽に勉強してもらえるのではということで実際に学習模型を作成いたしました。

この模型は主に屋根を葺く前の合掌造りの小屋組みの組み方を学ぶためのものです。できるだけ原寸に近づけて製作していますので合掌材とヤナカ力の縄の巻き方やネソを用意すればネソ巻きも習得することができます。やる気があれば屋根を葺くこともできます。主に子供達を対象にした大きさで作っていますので小中学校の皆さんにぜひとも活用していただければと思います。白川村の子供たちがこの模型をきっかけに少しでも合掌造りに興味を持つてもらえればありがたいです。組み立ててみたいという方はぜひ合掌財団までご連絡ください。



この合掌材の上にヤナカとクダリを組みます



みんなで合掌造りをつくろう!!

せせらぎ公園小呂駐車場 平成十八年度の入り込み

平成十八年度の入込みを平成十七年度と対比すると普通車が百二十六%、バスが百十二%と大幅な伸びとなりました。普通車は平成十四年度をピークに減少していましたが、十七年度上昇に転じ、今年度は飛躍的に伸びて、駐車場開業後歴代第二位の六万六千台となり、平成十四年度の七万台という記録に追いつく勢いです。バスも十七年度までゆるやかに下降線をたどっていましたが、今年度久しぶりに増加しました。

十八年度の小呂駐車場の増加要因についてはいくつか考えられますが、荻町新交通システム試行が今年度は計八回、四月から十一月までの第三日曜日に行われた事も影響していると思われます。荻町新交通システムとは、集落内旧国道の一定時間自動車乗入規制を行い、観光者の車をせせらぎ、寺尾臨時駐車場へ誘導、遠距離である寺尾に駐車した観光客にはシャトルバスによる送迎を行います。このシステムにより集落内から観光車両がなくなり、本来の農村風景が甦るとともに、観光車両を周囲の駐車場に分散させることで

一極集中による渋滞を緩和することが目的です。平成十九年度は十八回の試行を予定しています。またシステムの運営自体を財団主導で行うこととなります。試行ごとに検証、改良を重ね、より良いシステム運営を目指したいと思います。

さて今年度注目に値するのが、冬季間の入込数です。世界的な暖冬傾向の中で、白川郷も例に漏れず、大雪の少ない冬となりました。凍らない道路は、特に自家用車の増加に影響を与えました。十二月二月間の普通車入場台数を見ると前年度の約三倍強となっています。日別平均台数を調べますと、四〜六月期（G・W時を除く）と比べても遜色ありません。冬場は決して閉閑期ではなく条件さえ良ければ観光客は集まる、そんな潜在力を秘めているといえます。さて来年春予定の東海北陸自動車道全面開通によって、白川村へのアクセスはいっそう良好となります。冬といえど観光客を迎える私たちにとって、もはや半冬眠というわけにはいかないかもしれません。

平成17～18年度 せせらぎ公園小呂駐車場月別利用実績 単位:台

月	普通車				大型車			
	H17年度	H18年度	前年対比		H17年度	H18年度	前年対比	
	台数	台数	月別比	%	台数	台数	月別比	%
4月	2,937	2,991	54	101.84	937	982	45	104.80
5月	6,093	6,525	432	107.09	1,041	1,230	189	118.16
6月	2,362	3,250	888	137.60	917	888	29	96.84
7月	3,377	4,111	734	121.74	814	786	28	96.56
8月	10,482	13,328	2,846	127.15	793	797	4	100.50
9月	5,396	6,978	1,582	129.32	1,113	1,344	231	120.75
10月	8,538	10,543	2,005	123.48	2,383	2,564	181	107.60
11月	5,973	8,760	2,787	146.66	1,338	1,820	482	136.02
12月	453	1,572	1,119	347.02	371	484	113	130.46
1月	812	2,538	1,726	312.56	732	840	108	114.75
2月	897	2,428	1,531	270.68	1,137	1,319	182	116.01
3月	1,304	3,248	1,944	249.08	578	670	92	115.92
合計	48,624	66,272	17,648	136.29	12,154	13,724	1,570	112.92

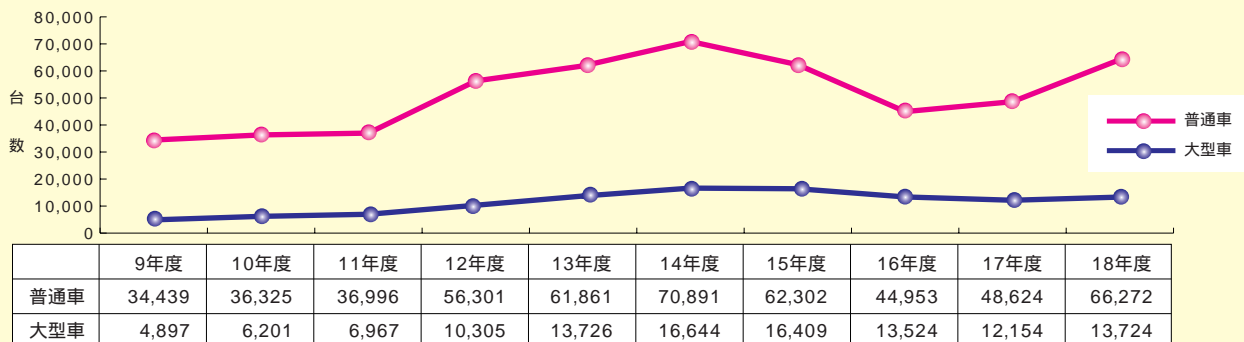
平成19年3月21日現在

平成18年度 荻町新交通システム試行実施日と過去の同曜日との入込比較 単位:台

第3日曜日	普通車				大型車			
	H17年度	H18年度	前年対比		H17年度	H18年度	前年対比	
	台数	台数	月別比	%	台数	台数	月別比	%
4月	174	550	376	316.09	39	92	53	235.90
5月	124	637	513	513.71	49	111	62	226.53
6月	186	632	446	339.78	45	102	57	226.67
7月	653	879	226	134.61	51	94	43	184.31
8月	256	936	680	365.63	36	70	34	194.44
9月	690	866	176	125.51	52	103	51	198.08
10月	415	484	69	116.63	108	205	97	189.81
11月	309	471	162	152.43	62	104	42	167.74
合計	2,807	5,455	2,648	194.34	442	881	439	199.32

10月第三日曜日は、どぶろく祭りと重なる。この時期はバス入込数が最も多く、普通車については周辺に祭礼臨時駐車場ができるため、小呂駐車場では例年バスを優先して入場させている。そのため交通システム試行により普通車が急激に増加することは無かった。

年度別入込み推移



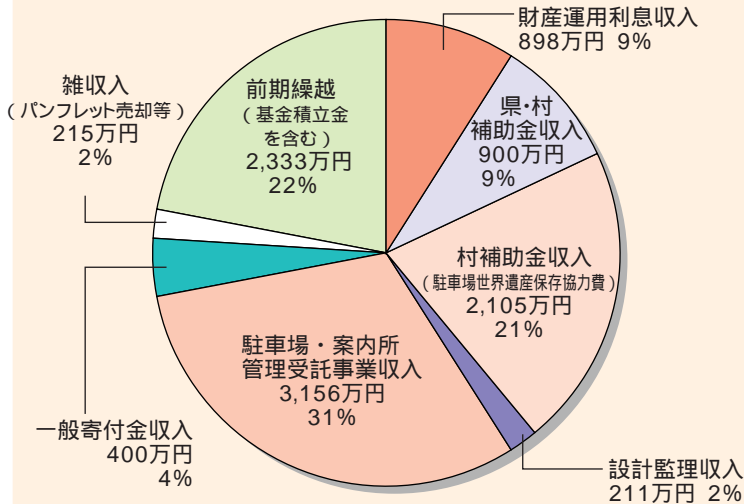
・・・財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団・・・

平成18年度

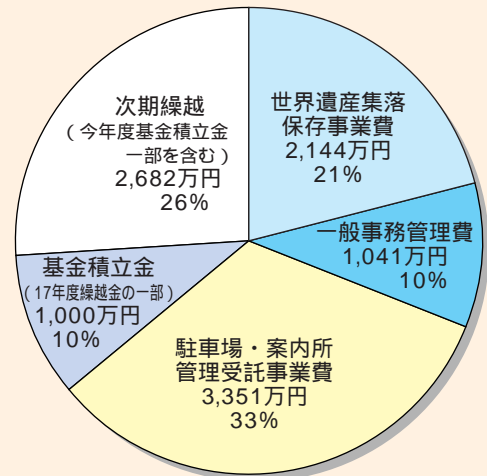
会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成18年度の会計状況をお伝えします。

歳入 1億218万円



歳出 1億218万円



平成18年度の主な事業

1. 修理事業	9,401,000円
差し茅	19棟 3,338,000円
伝統的建造物修理	4棟 833,000円
棟茅葺替	89棟 5,052,000円
トタン屋根葺替	3棟 178,000円
2. 修景事業	3,658,960円
修景協力費助成	8棟 1,098,000円
トタン屋根葺替	9棟 1,767,000円
ビニールシート指定色奨励事業	31枚 219,120円
一般建築物茅屋根補修	2棟 91,000円
オダレ助成	60枚 483,840円
3. 地域活性化事業	1,646,244円
自治保存会活動費助成	1,000,000円
自治保存会育成事業	381,400円
人材育成事業	264,844円
4. 調査普及事業	5,015,010円
新交通システムの普及事業	5,015,010円
6. 水田復旧事業	465,839円
耕作放棄地の復旧	465,839円
7. 啓発・啓蒙事業	498,750円
新交通システム対応マップの企画	498,750円
合計	20,685,803円

財源内訳

県補助金	4,500,000円
村補助金	4,500,000円
保存協力費	11,000,000円
基金運用利息	685,803円

財団が管理運営するせせらぎ公園小呂駐車場で徴収頂く料金は駐車場利用料(普通車300円・大型車2,000円)世界遺産保存協力費(普通車200円・大型車1,000円)の二種類にわかれます。これらはすべて財団を通して一旦村に納められます。駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、その一部が駐車場・案内所管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちらも一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは主要事業を遂行するための大切な収入源となっています。

平成18年度の駐車場収入は、来場者の増加により平成17年度を大きく上回り駐車場利用料約4,480万円、世界遺産保存協力費約2,660万円となりました。

財団が保有する基金は、約6億6,560万円、18年度は898万円の利息となりました。財団の貴重な自主財源として保存事業を中心に活用しています。皆様から頂いた寄付金が元になった基金ですから、今後も大切に管理運用していきたいと考えております。

財団が保持している基金の現在額(平成19年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	363,264,160円
合計	665,625,160円

ありがとうございます

募金ご協力者一覧 (敬称略)

平成18年度

- 東京都 福山歌子
- 神奈川県 小高 徹 / 小野幸子 / 北村秀雄
- 茨城県 黒田乃生
- 埼玉県 細谷恵子
- 群馬県 岩崎隆至
- 長野県 坂口一雄
- 静岡県 石原 正美
- 愛知県 中日航空株式会社 / 森 顕敏
- 岐阜県 早川美和子 / 中島只二 / 橋本明治 / 荒家福廣 / 今枝 清 / 三輪高史 / 有限会社高山観光写真サービス / 株式会社セントラルファイナンス岐阜支店
- 三重県 紺谷圭子 / 小田信雄
- 和歌山県 石田真紀
- 兵庫県 西本照也
- 福岡県 野中利郎
- 香川県 柴田 聡

竹筒募金

白楽 / 今藤商店 / 民宿 大田屋 / 民宿 よそべえ / 喫茶 合掌庵 / 民宿 のだにや / 民宿 やまもと / ます園 文助 / 民宿 久松 / お土産 こびきや / 民宿 伊三郎 / 民宿 かんじゃ / お土産 ぜん助 / お土産 おけさ / お土産 山香 / コーヒー 鄙 / 食事 しらおぎ / お土産 合掌苑 / 食事 白水園 / 喫茶 さとう / ちとせ / 民宿 十右工門 / 佐藤民芸品店 / お食事処 忠兵衛 / 民宿 利兵衛 / 民宿 幸工門 / 食事 ごばんしょ / 民宿 志みづ / 喫茶 千晴 / お土産 山里 / 民宿 よきち / お土産 しゃくなげ / 民宿 ふるさと / 食事 飛騨路 / 喫茶 狩人 / お土産 めめんこ / お土産 山楽堂 / 民宿 きどや / 民宿 わだや / 食事 ゆきんこ / 和田家 / 長瀬家 / 民宿 孫右エ門 / 城山天守閣 / 神田家 / 手打ちそば処 乃むら / 城山館 / 民宿 源作 / 民宿 与四郎 / 基太の庄 / おいしんぼ / 鳩谷郵便局 / あらい / どぶろく祭りの館 / 焰仁美術館 / 民宿 一茶 / 古太神 / 合掌 / いろり / たなか屋 / お土産 一飛 / 恵びすや / ギャラリー 郷愁 / 山峡の家 / 元気な野菜館 / 野外博物館 合掌造り民家園 / 明善寺郷土館 / 民宿 文六 / 白川郷の湯 / トヨタ白川郷自然学校 / 民宿 松兵衛 / 食事 喫茶 今昔 / 白川郷観光協会 / 総合案内であいの館 / 道の駅 / 白川村役場

世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落に暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっともっと増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

振替による場合

基金に対する
ご寄付お送り先
及び資料請求先

- 郵便振替口座 00810 - 6 - 51954
- 飛騨農業協同組合白川支店 (普) 9203800
- 十六銀行白鳥支店 (普) 261 - 213783
- 八幡信用金庫荘白川支店 (普) 03 - 034293

現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495 3
(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
TEL(05769)6 3111 FAX(05769)6 3113
インターネットでも受け付けています。
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

5年前から白川村で村外に流出した合掌造り民家の調査が開始され、調査開始当初からそれら対象の合掌造り民家を図面化するため私も毎年動向して様々な流出した合掌造りを実測してきました。

村外に流出した合掌造り民家は現在40棟程確認されており、その中には大切に活用されて維持されているものもあれば焼失したり荒廃したり現在どんな状態か不明なものもあり、状況は様々です。これらのほとんどは昭和30年代の電源開発ダム建設や昭和40年代の企業の山林用地買収を契機とする数々の集落の消長により移築されたものです。

調査をしてきてしみじみ感じているのが「大規模な合掌造りがまだこんなに存在するんだ。」ということ。とにかく調査する民家のほとんどが和田家や旧遠山家のような大規模なもので、材料もとにかく立派で感動します。調査をすればするほどこれらの合掌造りを何とかできないものかと考えさせられてしまいます。

明治8年に尾神村以北の23カ村が一緒になって生まれた白川村は昭和30年、40年という高度経済成長の時期に野谷・大牧・大窪・馬狩・牛首・加須良の6カ村を失いました。今は無きこれら6カ村にはかつてたくさん合掌造り民家が存在し現存する集落と共にこの地方独特の文化を育み、今ある白川村の文化圏を作り上げた大切な集落です。これらの集落の記憶を風化させないためにも村外に流出した合掌造り民家の保存対策も白川村として考えていく必要があるのではないかと最近強く感じています。

編集後記